

令和3年9月立山町議会定例会一般質問通告概要

(R3.9.13～28)

※質問順番

1番	佐藤	康弘	議員
2番	後藤	智文	議員
3番	澤井	峰子	議員
4番	村上	紀義	議員
5番	髪口	清隆	議員
6番	岡田	健治	議員
7番	平井	久秋	議員

1番 佐藤 康弘 議員

(1) ワクチン接種について

新型コロナウイルス感染者が、一向に収まらない状況は、大変憂慮する事態です。早く若年層までの接種が、待たれるところです。

立山町のワクチン接種は、県内でも順調に進んでいると思っています。

現在のワクチン接種の状況と、今後の進め方について問う。

(2) 地域活動の低下について

各公民館においては、行事、教室、サークル活動が行われていません。

町においても、イベントの中止や公共施設の使用制限で、町全体の活力が失われている。いたしかたのないところですが、この2年間は大きな影響があると思う。コロナ感染者の状況を見ながらとなりますが、各種団体と今後について意見交換をする必要があると思うが、考えを問う。

(3) 来年1月に行われる町長選挙について

ひたすら町政発展に努め、行財政改革、教育環境の充実、企業誘致など着実に成果を上げています。また、有利な国・県の補助金事業を積極的に活用され、防災・減災害対策、省エネルギー推進事業などにも積極的に取り組んできていることは多くの町民が理解しているところです。今は、コロナ禍の中、地域経済活力の低下、また地域活動の低下に加え、全国各地で発生している自然災害はよそごとではありません。

町には課題が山積しており、これらを確実に的確に解決できるのは、舟橋町長をおいてほかにはいないと思う。舟橋町長の熱意ある行動力と行政手腕に、多くの町民が期待していると確信しております。

自民党議員会の総意として、舟橋町長に引き続き町政を担当されるよう強く要請します。町長の思いをお聞かせ頂きたいと思えます。

2番 後藤 智文 議員

(1) 農業について

- ① 生産者米価が約2000円減となると報道されている。米作中心の町農業にとって大変な痛手であり、「このままでは米が作れない」と悲鳴が上がっている。町長としてどう受け止めているか。
- ② 町としての対策も含め、町長は富山県町村会会長であり、町村会として国に対策を要請すべきではないか。

(2) 町民生活向上のために

- ① 高齢者の買い物をする場所が近くに無くなり、買い物難民が増えている。移動販売車導入で一定の効果は上げているが限定的である。スーパーやドラッグストアに直接行くことができれば、直接品定めができる楽しみや認知症予防にもつながる。週に1回でも買い物バスの運行があれば高齢者に大変喜ばれると思う。検討すべきと考えるがどうか。
- ② 総合公園を子供からお年寄りまで集える場所としてとらえると、あと、スケートボード場があれば若者にも愛される公園になると思うがどうか。

(3) これまでとこれからの取り組みについて

- ① 旧新瀬戸小学校跡地利活用事業が中止された。地元の人たちの期待に応えられなくなったことについて、町長としての思いと今後の利活用への取り組みはどうされるのか。
- ② 1年半遅れて今秋に白岩酒造の新たな酒蔵が完成するとされている。この取り組みで地元の酒米を使用して農家の収入を上げるといわれていたが、実際今どのように取り組まれているのか。
- ③ SDGsに取り組むために「美しいまちづくり推進室」が新設されている。地球温暖化対策は待ったなしなので、具体的にどんな取り組みがなされるのか。取り組みに当たり、児童・生徒を含む町全体でSDGsを考える場を作ったらどうか。

(4) 新型コロナ対策について

- ① 長引くコロナ不況の下で、困窮する子育て世帯への援助を再度すべきではないか。
- ② コロナ禍で広がる生理の貧困対策が望まれている。すべての小中学校や公共施設に無償で使える生理用品の配置をすべきではないか。

(5) 教育について

- ① 町教育委員会は不登校ゼロを目指して努力されているが、広島県教育委員会が2年前、スペシャルサポートルームいわゆる校内フリースクールを開設し、実績を上げている。県教委の範囲かもしれないが町教委として研究し、実践する先進事例が作れないか。
- ② 雄山中学校に校歌からの一説を引いて校訓が制定された。
 1. 学校の基本方針があり、なぜ今、校訓の制定なのか。
 2. 生徒と共に積み上げたものでなく、教師の一方的な押し付けになるのではないか。
 3. 校訓唱和の実施や全教室に校訓額を設置するのは少し行き過ぎではないか。

(6) 新型コロナ対策（教育）について

- ① デルタ株によって子供への感染が広がっている。日本小児科学会と日本小児科医会が、新型

コロナウイルス感染症流行下での学校活動について提言を出した。感染症対策で重要な不織布マスクについて、家庭の経済的負担軽減のため、子供用マスクの無償提供を提起している。町教委の感染症対策は的確にされていて、今も無償配布はされているが、今後も継続して行うべきだと考えるがどうか。

- ② 学校の行事がなくなったり、友人と交流できなかつたりなどで、子供の心身に不調が生まれているといわれる。児童・生徒の自殺の増加も報道されている。子供の心の健康を保つ対策が必要と思うがどうか。
- ③ 幼・小・中の子どもが感染した場合、保護者、子供の間で誹謗・中傷が生まれないか心配であり、丁寧な対応が必要と考える。どのような対応をたっているか。
- ④ 学童保育所と放課後子ども教室は放課後の子どもたちの大切な場所だが、大変狭い場所で密になっていないか心配だ。どのような対策がたてられているのか。学校の体育館の開放や運動場の使用などの対応は必要だと思うがどうか。

3番 澤井 峰子 議員

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種について

- ① 全世代でワクチン接種が進んでいるが、若い世代の接種率向上への町の対策を伺う。
- ② 接種を希望するが、仕事等で予約枠内で予約できず未だ未接種の方への柔軟な対応が必要と思うが町の見解を伺う。
- ③ ワクチンの発症予防効果が2回目接種の2ヶ月後をピークに半年後には発症予防効果が84%と減少する。わが町でも早い方で年内に2回目接種から半年経過する方がいることから、3回目接種を視野に体制を整えなければならないと思うが町の見解、対応を伺う。

(2) 経済再生への対策

- ① 国は12月にワクチン接種証明を発行するとしているが、観光産業が主力のわが町にとって、感染対策と集客の環境整備は重要である。陰性証明も含め、町の見解、対策を伺う。
- ② 2024年に一般開放される立山黒部アルペンルートの新ルート（黒部ダムと樺平を結ぶルート）はわが町の魅力を更に発信できるものである。通り過ぎ観光ではなく、立山町での滞在型、体験型（フルーツ狩り・陶芸・グランピング等）を中心にE-バイクや周遊バスの導入、様々な観光マップを上手く組み合わせたプランで立山町を楽しんで頂きたいと考えるが町の見解を伺う。

(3) 中学校制服のブレザー化や選択制について

全国的に、中高生の制服を男女関係なく着用できるブレザー化が広がりを見せている。ブレザー化によりスラックス・スカート・キュロットが選択できるようになっている。様々な少数者への配慮の必要性が言われるなかで特に10代のトランスジェンダーを持つ子供は誰にも相談できずに一人で抱えてしまうため、学校での男女の垣根をなくす環境整備は重要である。一人一人の多様性と共生社会の対応について町の見解を伺う。

(4) ヤングケアラーについて

- ① 表面化しにくいヤングケアラーの把握、早期発見が重要であると思うが町の現状を伺う。

- ② ヤングケアラーの抱える課題に加え、コロナ禍でさらに環境が変化している家庭もある。関係機関と連携し、適切な支援につなげる体制や相談窓口の設置をと思うが町の対策は。

(5) コロナ禍における女性の負担軽減について

今、世界的に「生理の貧困」が問題となっている。日本においても5人に1人の若者が金銭的理由で生理用品を購入するのに苦労しているといった調査結果がある。

- ① 必要としている方、生活困窮者への防災備蓄品を活用し、配布支援を
- ② 父子家庭の女子児童、生徒が町内の衣料店で相談や生理用品一式が準備できる体制をと思うが見解を伺う。
- ③ 小学校対象学年、中学校や公共施設のトイレ等に無償提供を検討すべきではないか。
- ④ コロナ感染による自宅療養者に対しての生活支援について、対象者にあつた例えば生理用品や粉ミルクなどの必需品への対応をと思うが町の見解は。

4番 村上 紀義 議員

(1) 長期化するコロナ禍について

長引く新型コロナウイルス感染拡大で自粛生活が長引いている。多くの町民が疲弊し「巣ごもりうつ」も懸念されている。地域住民を繋ぐ様々な事業も中止となり、人と人のつながりが希薄になってきている。早期の収束が期待できない中、一人暮らしをはじめとした高齢者世帯等の安否確認が重要視され、特に高齢者の孤立、孤独化を避けなければならない。困難な時こそ対応で差がつくと聞く。コロナ禍での見守りの在り方について伺う。

- ① 住民が地区の高齢者の異変に気付いた際には、区長や民生委員に連絡がいく場合が多いと思うが、対応の行動マニュアルの策定や周知はきちっとされているか。
- ② 行政機関に昼夜の異常情報が通報された場合、どのような対応がなされるのか、特に業務時間外の対応は。
- ③ 新型コロナウイルス感染症がさらに長期化すれば、高齢者の一層の孤立化や健康リスクが増すと思うが、生きがいや健康管理強化等の支援策について伺う。
- ④ 収束が見えないコロナ禍、がんをはじめとした定期検診や早期受診を控え重症化が危惧されている。町民の命を守る町の対応と周知について伺う。

(2) 厳しさを増す農業について

米の需給調整と農業の活性化について全国の主食用米の需要量は毎年約10万トン減少してきている。長期化する新型コロナウイルスの影響も重なり、業務用米の需要が一段と落ち込んでいる。

本県の2021年産米の概算金が発表され、主力「コシヒカリ」の概算金を2,000円/60kg減額した。農家に支払われる貴重な前渡金であり、また取引価格のベースとなり、今年の稲作農家の収入は大幅ダウンだ。農業収入の主軸は米という農家や大規模稲作を主とした農業法人など、経営の悪化が危惧される。

- ① 21年産米概算金・買取価格は全国的に大きく下落した。過去最大級での主食用米からの作付け転換が進んだものの、需要減少で在庫が多く積み上げられた影響もある。大幅値下げから農業所得に影響が出ると思うが、町全体としての減額はどれくらいと捉えているかを問う。
- ② 大規模稲作農家ほど厳しさを増し、町として農家への繋ぎ資金繰り支援や、手厚い支援策が

必要と思うが考えを問う。

③ 本町の農業再生協議会の活動について問う。

④ 経営安定を図るため、農業収入を補填する「ならし対策」や「収入保険」等様々な制度がある。「収入保険」は自然災害による収量減少だけでなく、価格低下なども含めたすべての農産物に対応する収入減少を補填する制度だ。販売農家が安定的に再生産できる基盤が必要であり農業経営リスク管理を考えた場合、収入保険もその一策と考えるが。県内では南砺市が6月に助成制度を創設したが、本町の加入状況と課題について問う。

(3) 悲惨な事故から子どもを守る

記憶に新しい今年6月、千葉県八街市で起きた通学途中の小学生5人の死傷事故。改良工事の優先順位が低位だったと聞く。人命優先の整備が喫緊の課題だ。国は9月末をめどに合同点検の実施を求めている。

以前は「道路が狭い」「見通しが悪い」などで危険個所の洗い出しをしてきたが、今回の事故は、見通しの良い道路であった。近年、車の動線が変わりつつある。わが町においても幹線道路の抜け道となっている道路もあり、大型車など車の速度も上がりやすい。

① 町は、通学路の合同点検を毎年実施されていると思うが、令和2年度、今年度の実施個所の概要と重点事項や対策について問う。

② 見つかった危険を伴う改善箇所の対策、関係機関との連携を図り、早急に対処されているか。町としてどのような対策案を作成し、改善されているかを問う。

③ 通学路は地域によってさまざまだ。子どもが危険を感じる箇所は、大人の目の高さとは異なる。子どもの目の高さから見た危険箇所総点検の取り組みが重視されると思うが考えを問う。

(4) 地区要望事項と実現に向けて

地区の要望書は毎年提出されている。継続的な事項もあれば、ほぼ同一内容で提出されているような気がする。ここ数年の傾向をどのように認識されているのか。また予算化への優先順位についての考えを問う。

5番 髪口 清隆 議員

(1) ヤングケアラーについて

「ヤングケアラー」とは、家族の介護やケア、身の回りの世話を担う18歳未満の子どものことです。その生活が当たり前で、自身が「ヤングケアラー」という認識がないという子どもや、「他人には言いにくい家族の悩み」であることから、誰にも相談できずに孤独、孤立を感じている子どもが少なくないと言われている。

① 町では、ヤングケアラーの実態を把握しているのか。

② 学校生活や進路にまで影響が生じることもあることから、緊急に支援が必要かと思われるが、町長の考えは。

(2) 再配置計画について

町では平成29年3月、10年間の方針を示す計画で「立山町公共施設等マネジメント計画」が策定され、これを踏まえ令和3年には「立山町中心部公共施設再配置計画」を20年の計画期間を設

定し策定した。

- ① せっかくの計画があまり周知されていないのでは、対象施設や計画区域の概要は。
- ② 築年数が40年以上経過している施設も複数あり、老朽化による耐震性・安全性が懸念される。今後の方向性は。

(3) 土砂災害について

豪雨により令和3年8月13日に起きた土砂災害の概要を、9月2日の議会全員協議会で説明を受けた。

- ① 早期の復旧が望まれるが、現時点で他に土砂災害が起きそうな箇所はあるのか。
- ② 常に豪雨に見舞われることを想定した対策はできないのか。

6番 岡田 健治 議員

(1) 町民会館西側の町「平和の碑」公園地の整備について

町「平和の碑」が完成してから、6年が経過して今日に至っているが、数点の整備が必要と思うが。

1点目は公園と隣地の境界ラインの整備である。隣地の塀がむき出しのまま、放置されている。完成式典の時はテントが周りに張ってあって、不明であったが、隣家のブロック塀のままではせっかくの公園であるので、なんとかならないか。

2点目は、公園内の参道と公園西側の園地境の植栽（ツツジ）の延長整備である。

3点目は、「平和の碑」自体の嵩上げである。イスで式典をするにしても見下げる視点の位置にある、少なくとも視点の正面、或はやや高い位置に「平和の碑」文がくるように修整できないものだろうか。

(2) 民地屋敷林の伐採や枝おろし作業の斡旋等について

高齢者世帯が全世帯の1/5あるいは1/4になろうとしているが、高齢者世帯では庭木の整枝や伐採、草むしりもままならなくなっている。ましてや、カイニュー（屋敷林）の樹木の高枝なら、尚更のことである。今後ますますこのような高齢者の世帯が増えるが、伐採や枝おろし作業の紹介や斡旋が必要になると思われる。

今夏でも、シルバー人材センターは会員不足で作業に遅延を出している。また多少高額ではあるが造園業者でも手が回らない状態と言われている。全伐採ともなれば、高枝切りや鳶職も必要になりレッカー車を備えた業者の出番となろう。

補助も含めた対案を考慮する課題だと思うがどうか。

(3) 空き家対策と固定資産税の相互関係について

住むべき家人もなく、空き家として放置される家屋に対して、新課を創設して対策にあたっておられるが、抜本的な見直しが必要ではないか。

例えば、崩れかかっている家屋があれば固定資産税が安く、なんにもない更地だと税金は高い。これは正反対の法令で、家屋があれば税金は高く、更地だと税金は安くすべきが住民感情のもの。

さら地にしても、草ぼうぼうではまた違う問題が発生するが、これは国の法律で答えの出ている問題でもあろうが、悪法なら上申することも必要であり、また運用や方法論で、なんとか対策を取

れないか。採れる空き家対策の方法を問う。

(4) 新型コロナ患者の自宅待機対象者の病床確保について

この新型コロナ・ウイルス感染症による患者の受入れで、中等症以上の患者の病院の受入れが出来ない、救急車でいっても、病院の確保が出来ないというニュースを時折、耳にする。

町内の方々からもその病床の確保に質問いただいたり、強い言葉で要望をされたりするが、病床の確保はどのように考えているか。

高齢者の方々には自宅での待機は心もとない臨時にでもいいから看護師に見てもらいたい。自宅療養の最大の問題点は、家庭内感染を拡大させながら、患者の症状管理を医師資格のない厚生センターの職員が、電話1本で患者と連絡を取りながら、臨床医療として総合判断することなく、急変時などの医療に繋ぐタイミングを逸して自宅で死亡しかねないとの心配がある。現に全国的に13万人にも達している自宅待機療養者の自宅死のニュース報道に驚愕する。本来、感染症の基本は、自宅療養は原則無くするのが本筋であったはずで、日本の対応は間違っていて、高齢者は不安だ。人類が克服してきた7大感染症の基本もそうだったはずで、この8番目と言われる新型コロナ感染症でも強く指摘しておきたい。

そこで立山町の対応であるが、高齢者の方々には自宅待機・自宅療養は心配だということだが、どのように考えているのか。みらいぶや地区公民館等避難施設を使った病床の確保でもいいから、との声を聞くがどうか。町民の心配の払拭に心掛けてほしいが、対策を問う。

7番 平井 久秋 議員

(1) 雄山高校の科目について

雄山高校について、3度目の質問になる。昨年度の入学生から生活文化科の募集定員が40名から30名に減少となった。次回の高校再編での減少を防ぐためにも、さらに魅力のある高校にして行かねばならない。以前から提案している、「国際観光コース」の設置は、高校の魅力向上に必ずつながるものと信じる。県に対して多方面から粘りよく働き掛けていただきたいが、どうお考えか。

(2) 富山地鉄の安全運行について

旅客業は、安全運行が大前提だ。昨年7月に本線で脱線事故がありその後、整備基準値を超過している箇所が1,486カ所にも上ることが判明した。

- ① 立山線にはどのくらいの整備箇所があるのか。
- ② 町からの補助金は今回の補正予算を含めると昨年の約4.6倍である。立山線の安全運行に使っていただくよう申し入れはできないのか、伺う。

(3) 教育について

① タブレット使用による視力低下について

コロナ禍における児童生徒のタブレット教育が前倒しになっている中で、視力の低下が懸念される。使用前の視力検査と比較してどのような傾向が見られるのか、伺う。

- ② 視力の回復は容易でないと聞くが、近視につながる「仮性近視」の予防はできるという。学校では、指導や呼びかけ活動をしているというが、かつてのように、業間に予防運動を取り入

れ実施すればどうか。全体でやることで効果があると思うが。

(4) 安心・安全について

① 横断歩道の安全指導

信号機のない横断歩道での、車の一時停止違反は、富山県が全国ワースト4になっている。秋の全国交通安全運動でもチラシを作り注意喚起を行っているが内容は、ドライバーに向けたものである。交通弱者は、高齢者、子どもが多く、この方々への指導や配慮が必要だ。つい見逃す歩行者に対して横断歩道を渡る意志が、明確にわかるような指導が出来ないものか、伺う。

② 町内危険物施設の安全対策について

今年の7月に、町内の軽油貯蔵施設から流出事故が起きた。現在までのところ、大きな被害は出ていないが、注意は必要だ。町内にはこのような施設のほかに、万が一の場合、近隣住民に被害が出るような危険物施設に対して、どのような安全対策が施されているのか、伺う。